

■中田正子 日本初の女性弁護士の一人で、生涯、鳥取県にあって、女性初の弁護士会長、日本弁護士連合会理事にもなった。

なかたまさこ

韓国併合・・・1910＝ 東京市小石川区久堅町で、陸軍将校田中國次郎、母慎子の次女に生まれる。姉一人、のちに弟二人誕生。

明治天皇没・1912＝ 2歳：

職業軍人の傍らシェークスピアを原語で読む好学の士の父の影響のもと、自由に育つ。

民本主義・・・1916＝ 6歳：東京女子高等師範学校附属小学校に入学、

ベル仁条約・1919＝ 9歳：

原敬首相暗殺1921＝11歳：

水平社結成・1922＝12歳：卒業し、東京府立第二高等女学校に入学。スポーツが盛んな学校で、マラソンの草分け金栗四三に地理を学び、バスケット・ボールに明け暮れ、

金融恐慌・・・1927＝17歳：アメリカのYMCA主催ながら、現地に行かなくても良いフリースロー選手権大会に、個人とチームで参加、ともに一位になり、現地から贈られたトロフィーを駐日アメリカ大使から渡される忘れがたい思い出、

共産党事件・1928＝18歳：新渡戸稲造が校長を務める女子経済専門学校へ進み、「これからの婦人の生き方は？」という生徒の質問に、笑って「経時的独立」と答える吉野作造や、分かりやすく民法の話をしてくれる我妻栄ら錚々たる講師陣に学んで、学問、とくに法律の道を志すようになり、

世界恐慌・・・1929＝19歳：日本で初めて、女性に法律を教える明治大学専門部女子部ができる。東北、九州帝大、同志社大が女性の正式入学を認めていたが、東京には無かったため、

満州事変・・・1931＝21歳：日本大学法文学部へ選科生として入学し、

国際連盟脱退1933＝23歳：弁護士法が改正されて、女性にも弁護士の道が開かれると、一躍、学問的興味の対象になって、

帝人疑獄事件1934＝24歳：同課程を修了するや、明治大学専門部女子部法科の3年次に編入学、

芥川直木賞始1935＝25歳：卒業して明治大学法学部へと進学するが、授業には余り出席せず、朝から夜まで自宅で勉強

日中戦争始・1937＝27歳：在学中に、高等文官試験司法科を受験、女性初、紅一点の論述試験合格者となったが、口述試験でも問題なく答えるも、不合格にされてしまう。

健保+総動員 1938＝28歳：*再び同試験に挑み、久米愛、三淵嘉子と共に女性初となる合格者となるや、大々的に報道されて、大きな話題になり、3人とも明大女子部及び同法学部の出身者で、穂積重遠らに薫陶を受けていたことから、同校での祝賀会はもちろん、市川房枝の婦選獲得同盟ほか六つの婦人団体ほかの激励の会、さらには、敗戦直後に首相となる片山哲との座談会など、以後、一緒に行動することが多くなる。

第二次大戦始1939＝29歳：京都大学農学部農林経済学科を出て、東亜研究所に勤める中田吉雄と見合い結婚。_弁護士試補として、東京丸の内所在の企業法務を専門とする名門法律事務所岩田宙造法律事務所に入り、他の二人も、それぞれ一流の法律事務所に入って、1年半の修習中も、毎日のように会って、情報交換。

大政翼賛会・1940＝30歳：_正式な弁護士となった後も、そのまま岩田事務所内に在籍、所長や先輩弁護士の温かい指導のもと、弁護士活動を始め、政治家や財閥人が、愛人の子を本妻の子にして相続時に問題になるような事件が多いなか、女性を護りたいと、雑誌{主婦之友}や明大女子部で、女性を対象とした法律相談を受け持つ。

日米開戦・・・1941＝31歳：

・・・1942＝32歳：夫の実家に里帰りしていた際、偶然に、夫の弟の妻くみの出産に立ち会うことになり、その後の自らの出産への心構えになるとともに、義妹と親密な関係になる。

敗戦・・・1945＝35歳：夫の吉雄の結核療養もあって、鳥取県八頭郡若桜町の夫の実家へ疎開、義妹くみから、養蚕まで含む農作業すべてを教わりながら協働。

新憲法公布・1946＝36歳：初の子、長女澄江を出産。

新憲法施行・1947＝37歳：政治家への道を歩み出した夫は鳥取県議会議員になり、すぐに議長になったことから、

極東裁判判決・1948＝38歳：_鳥取県弁護士会に加入し、若桜町を中心に、そのまま根を下ろし、婦人会などで、この年施行された新民法、背景になる新憲法について講演するなど活動して行く。

三大事件・・・1949＝39歳：次女和子を出産。

朝鮮戦争始・1950＝40歳：_鳥取県再建運動に取組み、初代鳥取市長で最初の帝国議会議員になった旧藩士岡崎平内の歴史的な武家屋敷を借りて、法律事務所を開業するとともに、そこで暮し始め、夫が、参議院に、一人区の鳥取県で、社会党から立候補すると応援に駆けまわり、当選後は、ほとんど夫不在のなか、子育てしながら弁護士活動。

独立回復・・・1951＝41歳：末子の長男道夫を出産。

55年体制始・1955＝45歳：

東京リトル 1964＝54歳：夫の3回目の参議院議員選挙は、自民党候補との激戦になったが、辛勝。

震ヶ関ビル・1968＝58歳：夫は、この年まで3期、参議院議員を務めた。

全共闘レウ・1969＝59歳：*推薦され、女性として初めて、各県一つずつの(鳥取県)弁護士会会長、日本弁護士連合会理事になる。

鳥取家庭裁判所の調停員、同参与、労働省から委嘱された鳥取機会均等調停委員も務め、

石油ショック1973＝63歳：

角栄金脈辞任1974＝64歳：_藍綬褒章、

・・・1981＝71歳：勲四等瑞宝章。

中曽根内閣・1982＝72歳：

ジャンボ機墜落1985＝75歳：夫吉雄が脳梗塞で急逝。

バブル始・・・1986＝76歳：佐賀千恵美の取材を受ける。この時点でもなお、鳥取県の女性弁護士は、正子一人であり、全国においても、全弁護士の5%に満たない600人余りであって、増えているとは言い難い。

ソ連崩壊・・・1991＝81歳：

小泉北朝鮮・2002＝92歳：_最期まで、62年間、弁護士活動を続け、心不全のため鳥取市の病院で、没した。

_旧岡崎邸を所有している不動産業者が建物を取り壊し更地にしようとしたところ、居住権を楯に頑として認めず、貴重な歴史遺産を今に伝える上で大きな役割を果たしたことで知られる。

佐賀千恵美「三淵嘉子・中田正子・久米愛 日本初の女性法律家たち」, Wikipedia,